

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校は、「知徳体三育の全人教育」を範とする建学の精神に則り、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、我が国の工業発展を支える有能な実践的技術者を育成すること、広く地域と社会に貢献することを使命として昭和37年に創設された。その使命を果たすため、学則第1条において高等専門学校一般に求められる本校の目的を定めている(資料1-1-①-1)。知・徳・体バランスの取れた人間教育(全人教育)を重視することは、本校の特色であり、現代においても教育の根底に流れている。それを踏まえ、平成16年度に「教育理念」、「養成すべき人材像」、「準学士課程・専攻科課程、学科・専攻ごとの独自の目的」、「学習・教育目標」、「学生への支援に関する目標」を定め、さらに本校の中期目標として、「研究に関する目標」、「社会との連携や国際交流に関する目標」等を定めている(資料1-1-①-2)。

平成24年3月には、本校の使命、教育理念、養成すべき人材像、教育方針、各学科の目標、学習・教育目標、学生への支援に関する目標、国際交流等に関する目標、本校の学生受入方針を明確に定めるため、「鈴鹿工業高等専門学校の使命等に関する規則」を制定した(資料1-1-①-3)。

本規則第2条の「使命」については、規則の制定に際し見直しを行った。「建学の精神」に則ることについては、「鈴鹿工業高等専門学校基本理念」の前文に移し、新たに「技術者養成に関する地域の中核的教育機関として」という位置付けを明文化した。また、未来を展望することにより、「国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献する。」と見直した。

資料1-1-①-1

鈴鹿工業高等専門学校学則(抜粋)

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 鈴鹿工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法(平成18年法律第120号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

2 本校は、前項の目的を実現するための教育を行うことにより、社会の発展に寄与するものとする。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 学則)

○ 鈴鹿高専 第 2 期中期目標・中期計画

鈴鹿高専 第 1 期中期目標・中期計画から第 2 期中期目標・中期計画への改善点等を下線で示す。

中期目標対照表（抜粋）

中期目標（第 1 期）	中期目標（第 2 期）
<p>2 研究に関する目標</p> <p>研究活動の活性化を図るため、校長裁量経費を活用して、学科間を越えたプロジェクト研究を推進するとともに、複合・融合領域における研究テーマを創出し、産学官連携の共同研究を推進する。</p>	<p>2 研究に関する目標</p> <p><u>教育内容を学術の発展に即応させるため、継続して研究を行う。そのために必要な学術的研究のみならず先進的な研究，学科間を越えた複合・融合領域研究，産学官連携による共同研究・受託研究も推進する。これらの研究成果を発表や知的財産化等で広く社会に提供し，人材育成及び地域・産業界に貢献する。</u></p>
<p>3 社会との連携や国際交流に関する目標</p> <p>地域交流・地域連携・産学官連携等を通じて本校の教育研究の成果を社会に還元し，その連携協力を努める。また，地域の生涯学習機関としての役割を果たす。</p> <p>さらには，外国の高等教育機関との協定に基づく学生の国際交流を継続発展させ，国際的な視野と知見を備えた技術者の育成を図るとともに，留学生の受け入れを積極的に行う。</p>	<p>3 社会との連携や国際交流に関する目標</p> <p>地域交流・地域連携・産学官連携等を通じて本校の教育研究の成果を社会に還元し，その連携協力を努める。また，地域の生涯学習機関としての役割を果たす。</p> <p>さらには，外国の高等教育機関との協定に基づく学生の国際交流を継続発展させ，国際的な視野と知見を備えた技術者の育成を図るとともに，留学生の受け入れを積極的に行う。</p>

（出典 総務課資料）

鈴鹿工業高等専門学校の使命等に関する規則（抜粋）

（趣旨）

第 1 条 本規則は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）及び高等専門学校設置基準（昭和 36 年文部省令第 23 号）等関係法令の規定に基づき、鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）の使命等について定め、もって教育活動の適正かつ円滑な運営を図ることを目的とする。

（使命）

第 2 条 本校の使命は次のとおりとする。

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として、国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献する。

（教育理念）

第 3 条 本校の教育理念は次のとおりとする。

- （1）広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。
- （2）科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。
- （3）未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。
- （4）心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。

（養成すべき人材像）

第 4 条 本校の養成すべき人材像は次のとおりとする。

- （1）生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材
- （2）高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- （3）課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- （4）コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

（学科の教育方針）

第 5 条 学科（準学士課程）の教育方針は次のとおりとする。

5 年一貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てる。

（学科の教養教育の目標）

第 6 条 学科（準学士課程）の教養教育の目標は次のとおりとする。

豊かな人間性と社会性を涵養し、広い視野からの問題把握と価値判断ができる力を培う。また、自然科学及び情報処理の知識を習得させるとともに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

(学科の専門教育の共通目標)

第 7 条 学科 (準学士課程) の専門教育の共通目標は次のとおりとする。

「複合型生産システム工学」教育プログラム (2003 年度 JABEE 認定) で期待される高い専門知識と豊富な実験技術を養う。

(機械工学科の専門教育の目標)

第 8 条 機械工学科の専門教育の目標は次のとおりとする。

機械工学に関する理論と知識 (材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産、機械とシステム等)、実験技術を習得させるとともに、応用・展開力、創造性を養う。

(電気電子工学科の専門教育の目標)

第 9 条 電気電子工学科の専門教育の目標は次のとおりとする。

電気電子工学に関する理論と知識 (電気磁気学、電気・電子回路、エネルギー・電気機器、物性・デバイス、計測制御、情報・通信) 並びに全学年にわたって系統的に配置した実験・実習科目により実践的な技術を習得させ、創造性を養う。

(電子情報工学科の専門教育の目標)

第 10 条 電子情報工学科の専門教育の目標は次のとおりとする。

電子情報工学に関する理論と知識 (電気磁気学、電子回路、電子工学、電子制御、ソフトウェア工学、計算機工学、情報通信ネットワーク等) 及び実験技術並びにそれらの融合化技術に関する知識を習得させるとともに、創造性を養う。

(生物応用化学科の専門教育の目標)

第 11 条 生物応用化学科の専門教育の目標は次のとおりとする。

化学に関する理論と知識 (無機化学系科目、有機化学系科目、分析化学系科目、生物化学系科目、物理化学系科目等) 及び応用化学あるいは生物工学に関するコース別専門知識 (工業化学系科目、化学工学系科目、設計・システム系科目、環境工学系科目、細胞工学系科目、遺伝子工学系科目、生体材料工学系科目等) 並びに豊富な実験技術を習得させるとともに、創造性を養う。

(材料工学科の専門教育の目標)

第 12 条 材料工学科の専門教育の目標は次のとおりとする。

材料工学に関する理論と知識 (材料の物理と化学、材料の構造・設計・物性・機能、製造プロセス等) 及び豊富な実験技術を習得させるとともに、それらを応用して材料に関連する諸問題を解決できる創造性を養う。

(学習・教育目標)

第 17 条 教育理念、養成すべき人材像、教養教育の目標、専門教育の目標などを統合し、学生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を、学科（準学士課程）及び専攻科（専攻科課程）ごとの「学習・教育目標」として別に定める。

(学生への支援に関する目標)

第 18 条 本校の学生への支援に関する目標は次のとおりとする

豊かな人間性、健全な心身及び確かな自己実現を図るため、学生の学習活動や課外活動等への参加を促進し、未来を自ら切り拓く力を引き出せるよう修学上及び生活上の支援を行う。

(学科学生の受入方針)

第 19 条 本校の学科学生受入方針は次のとおりとする

- (1) 自然科学に興味をもち、将来の科学技術の発展に夢を抱く人
- (2) 自らの向上をめざして継続的に自己学習ができる人
- (3) 何事にも積極的に挑戦できる意思と意欲のある人

(第 4 学年編入学生の受入方針)

第 20 条 本校の第 4 学年編入学生受入方針は次のとおりとする

- (1) 科学技術に興味をもち、その発展に夢を抱く人
- (2) 自らの向上をめざして継続的に自己学習ができる人
- (3) 論理的に物事を考えることができる人
- (4) 何事にも積極的に挑戦する意思と意欲のある人

(留学生の受入方針)

第 21 条 本校の留学生受入方針は次のとおりとする

- (1) 科学技術に興味をもち、その発展に夢を抱く人
- (2) 自らの向上をめざして継続的に自己学習ができる人
- (3) 論理的に物事を考えることができる人
- (4) 何事にも積極的に挑戦する意思と意欲のある人
- (5) 日本語と日本文化に興味と関心を抱く人

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 鈴鹿工業高等専門学校の使命等に関する規則)

本校では、教育理念、養成すべき人材像、教養教育の目標、専門教育の目標などを統合し、学生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を、学科（準学士課程）及び専攻科（専攻科課程）ごとの「学習・教育目標」として定めている。

「学習・教育目標」(A)の<視野>は教育理念の(1)及び養成すべき人材像の(1)を、<技術者倫理>は教育理念の(1)を、<意欲>は教育理念の(3)、(4)及び養成すべき人材像の(1)を踏まえて策定している。また、「学習・教育目標」(B)の<基礎>は教育に関する方針、目標を、<専門>は養成すべき人材像の(2)及び教育に関する方針、目標を、<展開>は教育理念の(2)、(3)及び養成すべき人材像の(3)を踏まえて策定している。さらに、「学習・教育目標」(C)の<発表>は養成すべき人材像の(4)を、<英語>は養成すべき人材像の(4)及び教育に関する方針、目標を踏まえて策定している(資料1-1-①-4)。

資料1-1-①-4

資料2-1-①-3 本校の「教育目的」と各学科及び専攻科（「複合型生産システム工学」教育プログラム）の学習・教育目標との対応表

本校の「教育目的」 学習・教育目標		教育理念				養成すべき人材像				教育に関する 方針、目標
		(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	
(A)	<視野>	○				○				
	<技術者倫理>	○								
	<意欲>			○	○	○				
(B)	<基礎>									○
	<専門>						○			○
	<展開>		○	○				○		
(C)	<発表>								○	
	<英語>								○	○

<注>○印は該当箇所を示す

(出典 平成17年度機関別認証評価自己評価書p.218 資料2-1-①-3)

専攻科の目的は学則の第4条に定め（資料1-1-①-5）、学科（準学士課程）における教育の基礎の上に、精深な程度において工学の高度な専門的知識と実践的技術を教授研究し、もって広く産学の発展に寄与する人材を育成するとしている。また、「鈴鹿工業高等専門学校の使命等に関する規則」には、専攻科の教育方針、共通教育目標、各専攻の教育目標及び専攻科学生受入方針を明確に定めている（資料1-1-①-6）。さらに専攻科生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を学習・教育目標（「複合型生産システム工学」学習・教育目標）として別に定めている（資料1-1-①-7）。

資料1-1-①-5

鈴鹿工業高等専門学校学則（抜粋）

第4条 本校に、専攻科を置く。

- 2 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学の高度な専門的知識と実践的技術を教授研究し、もって広く産学の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。
- 3 専攻科に置く専攻及び入学定員は次のとおりとする。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 学則）

鈴鹿工業高等専門学校の使命等に関する規則（抜粋）

（専攻科の教育方針）

第 1 3 条 専攻科（専攻科課程）の教育方針は次のとおりとする。

（1）幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者の育成

（2）新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探求能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者の育成

（3）社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者の育成

（4）日本語および英語によるコミュニケーション能力をもった技術者の育成

（専攻科の共通教育目標）

第 1 4 条 専攻科の共通教育目標は次のとおりとする

JABEEの認定基準に準拠した複合型生産システム工学に関連する分野で技術革新を担うことができる高度で幅広い専門知識を習得させるとともに、研究開発能力、課題探求・問題解決能力、技術者倫理を含む総合的判断力、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てる。

（電子機械工学専攻の教育目標）

第 1 5 条 電子機械工学専攻の教育目標は次のとおりとする

機械工学，電気電子工学，電子情報工学等の学科出身者を対象として，機械・生産システム，メカトロニクス，計測制御技術，エレクトロニクス，情報技術などの分野で技術革新を担うことができる高い専門知識を習得させるとともに，研究開発能力を養う。

（応用物質工学専攻の教育目標）

第 1 6 条 応用物質工学専攻の教育目標は次のとおりとする

生物応用化学，材料工学等の学科出身者を対象として，ファインケミストリー，バイオテクノロジー，材料プロセス，環境保全・リサイクル技術，及び機能性新素材などの分野で技術革新を担うことができる高い専門知識を習得させるとともに，研究開発能力を養う。

（専攻科学生の受入方針）

第 2 2 条 本校の専攻科学生受入方針は次のとおりとする

（1）科学技術に興味をもち、その発展に夢を抱く人

（2）自らの向上をめざして継続的に自己学習ができる人

（3）論理的に物事を考えることができる人

（4）豊かな想像力と何事にも積極的に挑戦する行動力をもった人

（5）広い視野をもち、国際社会で活躍できる人

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 鈴鹿工業高等専門学校の使命等に関する規則）

「複合型生産システム工学」学習・教育目標

高専教育の特徴である早期 7 年一貫教育により、主となる専門分野（機械，電気・電子・情報，化学・生物，材料）の知識に加えて，中京地区の伝統的特徴である素材から工業製品に至る“ものづくり”に必要な生産システムに関する工学基礎知識，豊富な実験技術および新たな価値を創り出すことができる力*を身に付け，国際的に活躍できる実践的技術者を育成する。本プログラムの修了者は，以下の姿勢・知識・能力を身に付けている必要がある。

* 社会のニーズに対応して有用な製品や良質のサービスを実現するため，習得した知識・技術をもとに自ら進んで，技術的諸問題の解決や新たな“ものづくり”に取り組める能力

(A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)

＜視野＞ 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。(a)

人文・社会科学及び外国語の学習を通して，世界の歴史や文化，社会のしくみの違いを認識し，幅広い視野から物事を考えることができる。また，社会における自分自身，世界における日本の位置付けを理解し，他者他国の立場から物事を考えることができる。

＜技術者倫理＞ 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。(b)

技術者としての倫理観を身に付け，人類の生産活動によって生じた環境の破壊や技術者のモラルの欠如によって生じた重大事故等の事例を通して，技術者の社会的責任を理解できる。

＜意欲＞ 習得した知識・能力を超える問題に備えて，継続的・自律的に学習できる。

(e, g)

急速に進展する技術社会に対応できるよう，生涯にわたり自発的に学習する姿勢を身に付けて，知識・経験を継続的に積み上げることができる。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力 (c, d, e, h)

＜基礎＞ 数学，自然科学および情報技術の知識を習得し，それを活用できる。(c)

数学，自然科学および情報技術の知識として

- ・ 数学：微分積分，代数学，微分方程式等に関する知識
- ・ 自然科学：一般物理，一般化学に関する知識
- ・ 情報技術：情報基礎に関する知識

の内容を習得し，それを活用することができる。

資料 1 - 1 - ① - 7 続き

<専門> 基礎工学および主となる専門分野に加えて、生産システムに関する専門工学（生産・素材・計測に関する工学ならびに知識に関する工学）の知識を習得し、それを活用できる。(d)

「基礎工学」として

- ・ 設計・システム系科目
- ・ 情報・論理系科目
- ・ 材料・バイオ系科目
- ・ 力学系科目
- ・ 社会技術系科目

の内容を習得し、それを活用することができる。

「主となる専門分野の知識（実験技術を含む）」として

- ・ 機械 : 機械工学に関する知識
- ・ 電気・電子・情報 : 電気工学・電子工学・情報工学に関する知識
- ・ 化学・生物 : 応用化学・生物化学・生物工学に関する知識
- ・ 材料 : 材料工学に関する知識

のいずれかの内容を習得し、それを活用することができる。

「生産システムに関する専門工学の知識」として

- ・ 生産に関する工学 : 生産・製造方法等に関連する知識
- ・ 素材に関する工学 : 材料の種類、特性・性質等に関連する知識
- ・ 計測に関する工学 : 計測技術に関連する知識
- ・ 知識に関する工学 : 効率的な問題解決システムの構築または利用に関連する知識

の内容を習得し、それを活用することができる。

<展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。(c, d, e, h)

主となる専門分野および生産システムに関する知識をもとに、解決すべき問題に対して創造性を発揮し、解決法をデザインできる。また、その解決法を計画的に実行し、限られた時間内でレポート、論文等にまとめることができる。

資料 1-1-①-7 続き

(C) コミュニケーション能力 (f)

<発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。(f)

卒業研究論文，特別研究論文を論理的に記述することができる。与えられた時間内で，電子機器等を効果的に利用して卒業研究および特別研究の成果を口頭で発表でき，討論ができる。

<英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。(f)

専門領域に関する英語で書かれた文献の内容を理解することができ，卒業研究論文，特別研究論文の要旨を英語で記述することができる。また，特別研究の口頭での概要説明を経験している。

(備考)

文末のアルファベットは，日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準 1(1)との対応関係を示す。

(出典 平成24年度学生便覧p. 176-178)

(分析結果とその根拠理由)

本校は，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成するため，教育理念，養成すべき人材像，教育方針，各学科（準学士課程）の目標，専攻科（専攻科課程）の教育方針，共通教育目標，各専攻の教育目標を，本校の使命及び特色を踏まえて具体的かつ明確に定めている。また，それらを統合し，学生が身につけるべき姿勢・知識・技術・能力を，学科及び専攻科ごとの「学習・教育目標」として策定しており，学校教育法の定める目的に合致している。

観点 1-2-①： 目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点到に係る状況)

本校の基本理念（使命，教育理念，養成すべき人材像）及び教育目標は，ウェブサイト（資料 1-2-①-1）による一般的な周知のほか，教員（非常勤講師を含む）には教員手帳（資料 1-2-①-2）及び学生便覧（資料 1-2-①-3），職員には学生便覧（資料 1-2-①-3），学生には学期始めのオリエンテーションにおいて学生便覧（資料 1-2-①-3）により周知している。

基本理念・教育目標

独立行政法人 国立高等専門学校機構
鈴鹿工業高等専門学校
 SUZUKA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

English
Chinese

トップ 入試情報 公開講座・大会 教育・研究 施設・設備 学生生活 組織・統計 記録・広報誌 点検・評価・情報公開 アクセス
 リンク 台風・地震等の対応

受験生の皆様へ

- 受験生のみなさまへ
- 高専のメリット
- 入学試験情報
- 入試説明会等
- 学科紹介

企業の皆様へ

- 産学官連携
- 研究者データベース
- 就職・求人

地域の皆様へ

- 公開講座・大会
- 地域連携事業
- 情報公開制度について

保護者の皆様へ

- 学生行事
- 寮生活
- 授業料等免除
- 奨学制度

卒業生の皆様へ

- SHTN
- 同窓会
- 各種証明書申請

検索
キーワード

教育理念・教育目標

本校の使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として、国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献する。

教育理念

- ▶ 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。
- ▶ 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。
- ▶ 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。
- ▶ 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。

養成すべき人材像

- ▶ 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性を持った人材
- ▶ 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- ▶ 課題探究能力と問題解決能力を身に付けた創造性豊かな人材
- ▶ コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

教育方針

学科(準学士課程)

5年一貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てる。

専攻科(専攻科課程)

- ▶ 幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者を育成する。
- ▶ 新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探究能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者を育成する。
- ▶ 社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者を育成する。
- ▶ 日本語及び英語によるコミュニケーション能力をもった技術者を育成する。

ページが表示されました ローカル イントラネット 100%

鈴鹿工業高等専門学校 教育理念・教育目標 - Windows Internet Explorer

http://www.suzuka-ct.ac.jp/education/idea.htm

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H) 変換 選択

鈴鹿工業高等専門学校 教育理念・教育目標

powered by Google™

学内専用ページ

教育目標

学科(準学士課程)

- ◎ 教養教育の目標**
 豊かな人間性と社会性を涵養し、広い視野からの問題把握と価値判断ができる力を培う。また、自然科学及び情報処理の知識を習得させるとともに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。
- ◎ 専門教育の共通目標**
 「複合型生産システム工学」教育プログラム(2003年度 JABEE認定)で期待される高い専門知識と豊富な実験技術を養う。
- ◎ 機械工学科の専門教育の目標**
 機械工学に関する理論と知識(材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産、機械とシステム等)、実験技術を習得させるとともに、応用・展開力、創造性を養う。
- ◎ 電気電子工学科の専門教育の目標**
 電気電子工学に関する理論と知識(電気磁気学、電気・電子回路、エネルギー・電気機器、物性・デバイス、計測制御、情報・通信)並びに全学年にわたって系統的に配置した実験・実習科目により実践的な技術を習得させ、創造性を養う。
- ◎ 電子情報工学科の専門教育の目標**
 電子情報工学に関する理論と知識(電気磁気学、電子回路、電子工学、電子制御、ソフトウェア工学、計算機工学、情報通信ネットワーク等)及び実験技術並びにそれらの融合化技術に関する知識を習得させるとともに、創造性を養う。
- ◎ 生物応用化学学科の専門教育の目標**
 化学に関する理論と知識(無機化学系科目、有機化学系科目、分析化学系科目、生物化学系科目、物理化学系科目等)及び応用化学あるいは生物工学に関するコース別専門知識(工業化学系科目、化学工学系科目、設計・システム系科目、環境工学系科目、細胞工学系科目、遺伝子工学系科目、生体材料工学系科目等)並びに豊富な実験技術を習得させるとともに、創造性を養う。
- ◎ 材料工学科の専門教育の目標**
 材料工学に関する理論と知識(材料の物理と化学、材料の構造・設計・物性・機能、製造プロセス等)及び豊富な実験技術を習得させるとともに、それらを活用して材料に関連する諸問題を解決できる創造性を養う。

ページが表示されました

ローカル イントラネット 100%

専攻科(専攻科課程)

- 共通教育目標**

JABEEの認定基準に準拠した複合型生産システム工学に関連する分野で技術革新を担うことができる高度で幅広い専門知識を習得させるとともに、研究開発能力、課題探求・問題解決能力、技術者倫理を含む総合的判断力、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てる。
- 電子機械工学専攻の教育目標**

機械工学、電気電子工学、電子情報工学等の学科出身者を対象として、機械・生産システム、メカトロニクス、計測制御技術、エレクトロニクス、情報技術などの分野で技術革新を担うことができる高度な専門知識を習得させるとともに、研究開発能力を養う。
- 応用物質工学専攻の教育目標**

生物応用化学、材料工学等の学科出身者を対象として、ファインケミストリー、バイオテクノロジー、材料プロセスング、環境保全・リサイクル技術、及び機能性新素材などの分野で技術革新を担うことができる高度な専門知識を習得させるとともに、研究開発能力を養う。

このページに関するお問い合わせは学生課教務係まで。
最終更新日2012年4月11日

サイトポリシー お問い合わせ copyright 2007-2009 鈴鹿工業高等専門学校 510-0294 三重県鈴鹿市白子町 059-385-1031 (代表)

ローカル イン트라ネット 100%

(出典 本校ウェブサイト)

資料 1 - 2 - ① - 2

鈴鹿工業高等専門学校基本理念

鈴鹿工業高等専門学校は、建学の精神を踏まえ、未来を展望し、次のとおり教育理念と養成すべき人材像を定める。

使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として、国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献する。

教育理念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。
- (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。

養成すべき人材像

- (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材
- (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

資料 1 - 2 - ① - 2 続き

鈴鹿工業高等専門学校の教育目標

○教育に関する目標

<学科教育>

教育方針

5年一貫の教養教育及び実践的工学教育により，創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てる。

教養教育の目標

豊かな人間性と社会性を涵養し，広い視野からの問題把握と価値判断ができる力を培う。また，自然科学及び情報処理の知識を習得させるとともに，英語によるコミュニケーション能力を育成する。

専門教育の共通目標

「複合型生産システム工学」教育プログラム（2003年度 JABEE 認定）で期待される高い専門知識と豊富な実験技術を養う。

機械工学科の目標

機械工学に関する理論と知識（材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産，機械とシステム等），実験技術を習得させるとともに，応用・展開力，創造性を養う。

資料 1 - 2 - ① - 2 続き

電気電子工学科の目標

電気電子工学に関する理論と知識(電気磁気学、電気・電子回路、エネルギー・電気機器、物性・デバイス、計測制御、情報・通信)並びに全学年にわたって系統的に配置した実験・実習科目により実践的な技術を習得させ、創造性を養う。

電子情報工学科の目標

電子情報工学に関する理論と知識(電気磁気学, 電子回路, 電子工学, 電子制御, ソフトウェア工学, 計算機工学, 情報通信ネットワーク等)及び実験技術並びにそれらの融合化技術に関する知識を習得させるとともに, 創造性を養う。

生物応用化学科の目標

化学に関する理論と知識(無機化学系科目, 有機化学系科目, 分析化学系科目, 生物化学系科目, 物理化学系科目等)及び応用化学あるいは生物工学に関するコース別専門知識(工業化学系科目, 化学工学系科目, 設計・システム系科目, 環境工学系科目, 細胞工学系科目, 遺伝子工学系科目, 生体材料工学系科目等)並びに豊富な実験技術を習得させるとともに, 創造性を養う。

材料工学科の目標

材料工学に関する理論と知識(材料の物理と化学, 材料の構造・設計・物性・機能, 製造プロセス等)及び豊富な実験技術を習得させるとともに, それらを応用して材料に関連する諸問題を解決できる創造性を養う。

資料 1 - 2 - ① - 2 続き

<専攻科教育>**教育方針**

- (1) 幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者を育成する。
- (2) 新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探求能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者を育成する。
- (3) 社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者を育成する。
- (4) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力をもった技術者を育成する。

共通教育目標

JABEE の認定基準に準拠した複合型生産システム工学に関連する分野で技術革新を担うことができる高度で幅広い専門知識を習得させるとともに、研究開発能力，課題探求・問題解決能力，技術者倫理を含む総合的判断力，英語によるコミュニケーション能力の育成を図り，技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てる。

電子機械工学専攻の教育目標

機械工学，電気電子工学，電子情報工学等の学科出身者を対象として，機械・生産システム，メカトロニクス，計測制御技術，エレクトロニクス，情報技術などの分野で技術革新を担うことができる高度な専門知識を習得させるとともに，研究開発能力を養う。

応用物質工学専攻の教育目標

生物応用化学，材料工学等の学科出身者を対象として，ファインケミストリー，バイオテクノロジー，材料プロセッシング，環境保全・リサイクル技術，及び機能性新素材などの分野で技術革新を担うことができる高度な専門知識を習得させるとともに，研究開発能力を養う。

資料 1 - 2 - ① - 2 続き

<学習・教育目標>

教育理念，養成すべき人材像，教養教育の目標，専門教育の目標などを統合し，学生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を，学科及び専攻科ごとの「学習・教育目標」として別に定める。

○学生への支援に関する目標

豊かな人間性、健全な心身及び確かな自己実現を図るため、学生の学習活動や課外活動等への参加を促進し、未来を自ら切り拓く力を引き出せるよう修学上及び生活上の支援を行う。

(出典 平成24年度教員手帳p. 1-3)

鈴鹿工業高等専門学校基本理念

鈴鹿工業高等専門学校は、建学の精神を踏まえ、未来を展望し、次のとおり教育理念と養成すべき人材像を定める。

使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として、国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献する。

教育理念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。
- (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。

養成すべき人材像

- (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材
- (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

鈴鹿工業高等専門学校の教育目標

○教育に関する目標

<学科教育>

教育方針

5年一貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てる。

教養教育の目標

豊かな人間性と社会性を涵養し、広い視野からの問題把握と価値判断ができる力を培う。また、自然科学及び情報処理の知識を習得させるとともに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

専門教育の共通目標

「複合型生産システム工学」教育プログラム（2003年度 JABEE 認定）で期待される高い専門知識と豊富な実験技術を養う。

機械工学科の目標

機械工学に関する理論と知識（材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産、機械とシステム等）、実験技術を習得させるとともに、応用・展開力、創造性を養う。

電気電子工学科の目標

電気電子工学に関する理論と知識（電気磁気学、電気・電子回路、エネルギー・電気機器、物性・デバイス、計測制御、情報・通信）並びに全学年にわたって系統的に配置した実験・実習科目により実践的な技術を習得させ、創造性を養う。

電子情報工学科の目標

電子情報工学に関する理論と知識（電気磁気学、電子回路、電子工学、電子制御、ソフトウェア工学、計算機工学、情報通信ネットワーク等）及び実験技術並びにそれらの融合化技術に関する知識を習得させるとともに、創造性を養う。

資料 1 - 2 - ① - 3 続き

生物応用化学科の目標

化学に関する理論と知識（無機化学系科目，有機化学系科目，分析化学系科目，生物化学系科目，物理化学系科目等）及び応用化学あるいは生物工学に関するコース別専門知識（工業化学系科目，化学工学系科目，設計・システム系科目，環境工学系科目，細胞工学系科目，遺伝子工学系科目，生体材料工学系科目等）並びに豊富な実験技術を習得させるとともに，創造性を養う。

材料工学科の目標

材料工学に関する理論と知識（材料の物理と化学，材料の構造・設計・物性・機能，製造プロセス等）及び豊富な実験技術を習得させるとともに，それらを活用して材料に関連する諸問題を解決できる創造性を養う。

<専攻科教育>**教育方針**

- (1) 幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者を育成する。
- (2) 新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探求能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者を育成する。
- (3) 社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者を育成する。
- (4) 日本語及び英語によるコミュニケーション能力をもった技術者を育成する。

共通教育目標

JABEE の認定基準に準拠した複合型生産システム工学に関連する分野で技術革新を担うことができる高度で幅広い専門知識を習得させるとともに，研究開発能力，課題探求・問題解決能力，技術者倫理を含む総合的判断力，英語によるコミュニケーション能力の育成を図り，技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てる。

電子機械工学専攻の教育目標

機械工学，電気電子工学，電子情報工学等の学科出身者を対象として，機械・生産システム，メカトロニクス，計測制御技術，エレクトロニクス，情報技術などの分野で技術革新を担うことができる高度な専門知識を習得させるとともに，研究開発能力を養う。

資料 1 - 2 - ① - 3 続き

応用物質工学専攻の教育目標

生物応用化学，材料工学等の学科出身者を対象として，ファインケミストリー，バイオテクノロジー，材料プロセッシング，環境保全・リサイクル技術，及び機能性新素材などの分野で技術革新を担うことができる高度な専門知識を習得させるとともに，研究開発能力を養う。

＜学習・教育目標＞

教育理念，養成すべき人材像，教養教育の目標，専門教育の目標などを統合し，学生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を，学科及び専攻科ごとの「学習・教育目標」として別に定める。

○学生への支援に関する目標

豊かな人間性、健全な心身及び確かな自己実現を図るため、学生の学習活動や課外活動等への参加を促進し、未来を自ら切り拓く力を引き出せるよう修学上及び生活上の支援を行う。

(出典 平成24年度学生便覧 冒頭)

教職員及び学生に対しては、このほか、機会を捉えて適宜に本校の目的を周知している。例えば、平成 24 年 3 月には教職員会議において周知した（資料 1-2-①-4）。さらに新任教員に対する説明会を年度当初に実施し、周知している（資料 1-2-①-5）。学科の各クラスルームには、より具体化した学科ごとの「学習・教育目標」を、学科 4 年以上及び専攻科の各クラスルームには、「複合型生産システム工学」の「学習・教育目標」をパネルで掲示し、学生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を明確にしている（資料 1-2-①-6）。

資料 1-2-①-4

「鈴鹿工業高等専門学校の使命等に関する規則」の制定について

1. 制定理由

高等専門学校設置基準の一部改正（平成 19 年 7 月 31 日公布。平成 20 年 4 月 1 日施行）に基づき、本校の使命等を規則として定める。

2. 平成 24 年 3 月 5 日から施行する。

3. 参考

高等専門学校設置基準

（教育上の目的）

第 3 条 高等専門学校は、学科ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育上の目的を学則等に定め、公表するものとする。

（出典 平成23年度第11回教職員会議資料）

平成 2 4 年度新任教員等に対する説明会実施要領

1. 日時及び場所 平成 2 4 年 4 月 4 日（水）
 1 0 時 0 0 分～1 3 時 5 0 分（第 2 会議室）
 1 4 時 0 0 分～1 4 時 3 0 分（情報処理センター）
2. 受講対象者 管理教職員を除く平成 2 4 年 4 月 1 日付け採用及び他大学・高専等
 から転入教職員（事務職員は①，②，⑥及び⑦のみ、非常勤職員は⑦
 のみ）
3. 研修内容
- | | | |
|-------------------|-------------------------|----------------------------|
| ①挨拶 | 1 0 時 0 0 分～1 0 時 1 0 分 | |
| ②管理運営に関する事項 | 1 0 時 1 0 分～1 0 時 3 0 分 | （事務部長） |
| ③教務に関する事項 | 1 0 時 3 0 分～1 1 時 0 0 分 | （教務主事） |
| ④学生の生活支援に関する事項 | 1 1 時 0 0 分～1 1 時 2 0 分 | （学生主事） |
| ⑤学寮における学生生活に関する事項 | 1 1 時 2 0 分～1 1 時 4 0 分 | （寮務主事）
（終了後，寮の見学を行います。） |
| ⑥諸手続きに関する事項 | 1 3 時 2 0 分～1 3 時 5 0 分 | （人事給与係）
（契約係） |
| ⑦情報処理センターの説明会 | 1 4 時 0 0 分～1 4 時 3 0 分 | （情報処理副
センター長） |
4. 進 行 総務課長
5. 配付・持参資料（教員のみ） 教員手帳、学生便覧

（出典：総務課資料）

2. 学習・教育目標

本校の5学科には、それぞれの学習・教育目標があり、全ての教室に掲示しています。

機械工学科 学習・教育目標

本学科の卒業生は、産業界で活躍できる実践的機械技術者として、以下の姿勢・知識・技術・能力を身に付けている必要がある。

(A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)

- <視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺める。(a)
- <技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。(b)
- <意欲> 習得した知識・技術・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。(e, g)

(B) 基礎・専門の知識・技術とその応用力 (c, d, e, h)

- <基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。(c)
- <専門> 機械主要分野の専門基礎知識、および機械分野の諸問題解決に必要な専門知識・技術を身に付けている。(d)
- <展開> 習得した知識・技術をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。(c, d, e, h)

(C) コミュニケーション能力 (f)

- <発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。(f)
- <英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。(f)

注：文末のアルファベットはJABEEの基準1(1)との対応関係を示す。

電気電子工学科(電気工学科) 学習・教育目標

本学科の卒業生は、基礎理論と十分なる実験・実習技術を背景に、工業分野で活躍できる実践的技術者として以下の知識・技術・能力を身につけている必要がある。

(A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)

- <視野> 地球人としての視野をもって自己と世界の関係を理解し、地球規模で物事を眺める。(a)
- <技術者倫理> 技術が人類・社会・自然におよぼす影響や生産により生じる環境と社会の変化を認識し責任を自覚する。(b)
- <意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。(e, g)

(B) 基礎・専門の知識とその応用力 (c, d, e, h)

- <基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。(c)
- <専門> 電気・電子・情報通信分野の基礎理論、基礎技術の知識を習得している。(d)
- <展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。(c, d, e, h)

(C) コミュニケーション能力 (f)

- <発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。(f)
- <英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。(f)

注：文末のアルファベットはJABEEの基準1(1)との対応関係を示す。

(出典 平成24年度学生便覧p. 34)

平成 23 年度当初に第 2 学年～第 5 学年の学生を対象として行ったアンケートでは、教育理念、養成すべき人材像、教養・専門教育の目標等に基づく各学科の「学習・教育目標」の理解についての自己評価は、5 段階評価で概ね平均 3 以上であるが、平均 3 を下回る学年がある。また、平成 23 年度学科卒業時及び専攻科修了時に行ったアンケートでは、学科生は平均 3.4～3.7、専攻科生は平均 3.3～4.3 と概ね理解されている。（資料 1－2－①－7）

平成 24 年 4 月に教職員（非常勤講師を含む）に行ったアンケートでは、「本校の使命」「教育理念」「養成すべき人材像」「学習・教育目標」については平均 4.3～4.5 と十分理解されていることが明らかとなった（資料 1－2－①－8）。「本校の学生への支援に関する目標」については平均 4.1 であり、他の項目に比べてわずかに低い値であるが、十分理解されていると判断できる。

資料 1 - 2 - ① - 7

学生に対する本校の目的の周知に関するアンケート調査結果のまとめ

○アンケート項目

<学校の目的の周知>

教育理念，養成すべき人材像，教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育目標」を
[5. 十分理解していると思う。→→→→1. 全く理解できていない。]

○アンケート結果

	時期	対象者	自己評価
2年	23年度 4月	M	3.0
		E	1.9
		I	2.6
		C	2.4
		S	2.7
3年	23年度 4月	M	3.0
		E	3.2
		I	3.1
		C	2.6
		S	3.0
4年	23年度 4月	M	2.6
		E	3.3
		I	3.5
		C	2.7
		S	2.6
5年	23年度 4月	M	3.3
		E	3.1
		I	3.2
		C	2.9
		S	3.4

	時期	対象者	自己評価
学 科	23年度 卒業時	M	3.4
		E	3.4
		I	3.7
		C	3.6
		S	3.6

	時期	出身 学科	自己 評価
専 攻 科	23年度 修了時	M	3.6
		E	3.3
		I	3.8
		C	3.7
		S	4.3

(出典：総務課資料)

資料 1 - 2 - ① - 8

教職員（非常勤講師を含む）に対する本校の目的の周知に関するアンケート調査

○アンケート項目

1. 本校の使命を知っていますか。

[5. よく知っている。→→→→ 1. 全く知らない。]

2. 本校の教育理念を知っていますか。

[5. よく知っている。→→→→ 1. 全く知らない。]

3. 本校の養成すべき人材像を知っていますか。

[5. よく知っている。→→→→ 1. 全く知らない。]

4. 本校の教育理念，養成すべき人材像，教養教育の目標，専門教育の目標などを統合し，学生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を，学科（準学士課程）及び専攻科（専攻科課程）ごとの「学習・教育目標」として定めていることを知っていますか。

[5. よく知っている。→→→→ 1. 全く知らない。]

5. 本校の「学習・教育目標」の概要を知っていますか。

[5. よく知っている。→→→→ 1. 全く知らない。]

6. 本校の学生への支援に関する目標を知っていますか。

[5. よく知っている。→→→→ 1. 全く知らない。]

○アンケート結果

時期	項目	自己評価
24 年度 4 月	1	4.5
	2	4.4
	3	4.5
	4	4.3
	5	4.3
	6	4.1

(分析結果とその根拠理由)

本校のウェブサイト，各種資料，掲示パネル等の様々な手段を用い，かつ，種々の機会をとらえて教職員及び学生への説明を行っている。学生へのアンケート結果からは，学科生・専攻科生ともに概ね理解されていると判断できる。また，教職員へのアンケート結果からは，「本校の使命」，「教育理念」，「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」について確実に理解されていると判断できる。

以上のことから，本校では目的を学校の構成員に十分に周知している。

観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点到に係る状況)

本校ウェブサイト「教育理念・教育目標」を公開している(資料1-2-①-1)。また、広報用資料「鈴鹿工業高等専門学校ポケットガイド」(資料1-2-②-1)には、教育理念、養成すべき人材像に加えて、1. 教育に関する目標(学科教育, 専攻科教育), 2. 研究に関する目標, 3. 社会との連携や国際交流に関する目標, 4. 管理運営に関する目標を掲載している。このポケットガイド(平成23年度は2,500部作成)は、産学官連携活動の行事に参加する企業等、公開講座などの学内行事への参加者、インターンシップ巡回で訪問する企業及び入試広報で訪問する中学校等、幅広く配布している(資料1-2-②-2)。

資料 1-2-②-1

基本理念・目標

基本理念

教育理念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養します。
- (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成します。
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てます。
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てます。

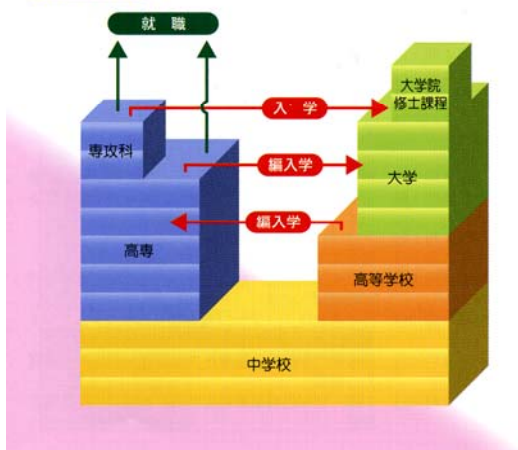
養成すべき人材像

- (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材を養成します。
- (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材を養成します。
- (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材を養成します。
- (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材を養成します。

求める入学志願者像

- ・自然科学に興味をもち、将来の科学技術の発展に夢を抱く人
- ・自らの向上をめざして継続的に自己学習ができる人
- ・何事にも積極的に挑戦する意思と意欲のある人

高専制度



目 標

1 教育に関する目標

【学科教育】

5年一貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を育てます。

【専攻科教育】

より高度で幅広い専門知識や創造力、判断力を身に付け、科学技術の分野で国際的に活躍できる実践的技術者を育てます。

2 研究に関する目標

教育内容を学術の進展に即応させるため、継続して研究を行います。そのために必要な学術的研究のみならず先進的な研究、学科間を越えた複合・融合領域研究、産学官連携による共同研究・受託研究も推進します。これらの研究成果を発表や知的財産化等で広く社会に提供し、人材育成および地域・産業界に貢献します。

3 社会との連携や国際交流に関する目標

地域交流・地域連携・産学官連携等を通じて本校の教育研究の成果を社会に還元し、その連携協力を努めます。また、地域の生涯学習機関としての役割を果たします。

さらには、外国の高等教育機関との協定に基づく学生の国際交流を継続発展させ、国際的な視野と知見を備えた技術者の育成を図るとともに、留学生の受け入れを積極的に行います。

4 管理運営に関する目標

校長のリーダーシップの下に、運営会議を中心とした施策立案、審議執行及び評価監査のサイクルを確立するとともに、迅速かつ効率的な運営を図るため、運営会議及び各種委員会の位置付け、機能及び審議・協議事項の明確化を図ります。

また、本校における教育研究等の活動全般について自己点検・評価を行うとともに、広く外部からの意見を取り入れ、開かれた学校運営を行います。

さらには、限られた各種資源を戦略的に配分するため、本校の運営方針に基づき、重点的に資源配分する仕組みを整備するとともに、事務組織の機能、編成等を見直し、事務処理の効率化・簡素化並びに事務職員及び技術職員の資質の向上に努めます。

地域貢献・地域開放事業

○女子中高生の理系進路選択支援事業

- ・続け、理系の卵たち！ 描け、貴女の未来予想図！ 2011

○小・中学生向け公開講座

- ・機械工学のひところま
- ・やさしいエレクトロニクス教室
- ・乗り物のコンピュータ制御の～い・ろ・は～
- ・身のまわりのおもしろ化学実験
- ・材料科学の夏の祭典・キャンパスエコーアール
- ・環境とグリーンエネルギーを学ぼう

○小学校へのお出前授業

鈴鹿市等の教育委員会と連携して実施しています。授業を受けた小学生からは理科が好きになったなどの声が多く聞かれます。

○技術相談

地域貢献の一環で技術相談を実施しています。技術相談から共同研究を実施したケースもありますので、お気軽にご連絡ください。

<連絡先>総務課地域連携係 Tel: 059-368-1717

(出典 平成23年度ポケットガイド)

資料 1 - 2 - ② - 2

本校の目的を記載した印刷物（平成23年度ポケットガイド）の配布状況

配布時期	行事・配布先等	配布部数
平成 23 年 7 月	中学校へ送付	500 部
平成 23 年 7 月	入試説明会にて配布	200 部
平成 23 年 7 月	公開講座にて配布	100 部
平成 23 年 7, 8 月	アカデミックセミナーにて配布	146 部
平成 23 年 7, 8 月	インターンシップ巡回企業先に配布	100 部
平成 23 年 8 月 18 日	女子中高生理系進路支援事業にて配布	104 部
平成 23 年 9, 10 月	入試説明会にて配布	400 部
平成 23 年 10 月 1, 2 日	オープンカレッジにて配布	300 部
平成 24 年 3 月 1 日	鈴鹿高専産学官交流フォーラムにて配布	85 部
計		1,935 部

(出典：総務課及び学生課資料)

平成24年度学科学生募集要項・入学案内（資料 1 - 2 - ② - 3）には「教育理念」及び「求める入学志願者像」を記載し、中学校の進路指導教諭を対象とした入試説明会（開催地：本校，水口，桑名，伊勢，尾鷲）及び学校見学会・受験相談において説明している。また，中学校主催の入試説明会に教員が参加し，本校の教育理念等学校のPRを行っている。さらに，希望する県内外の中学校へ担当教員が訪問し，本校の入試のほか，「教育理念」及び「求める入学志願者像」を説明している（資料 1 - 2 - ② - 4）。

学科入試だけでなく，平成24年度編入学生募集要項・編入学案内に「教育理念」を，平成25年度専攻科学生募集要項・専攻科入学案内に「専攻科の教育方針」及び「求める志願者像」を記載している（資料 1 - 2 - ② - 5, 6）。

平成 24 年度学科学生募集要項・入学案内（抜粋）

（2）教育理念

21 世紀を迎えた今、科学技術の高度化と国際化の到来により、技術者教育を担う高等教育機関には新たな展開が求められています。そのため、鈴鹿高専では建学の精神を範とした、次のような教育理念を定め、「世界に羽ばたく創造的なエンジニア」の育成を目指しています。

- ① 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養します。
- ② 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成します。
- ③ 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てます。
- ④ 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てます。

2. アドミッション・ポリシー（学科入学者受入方針）

（1）求める入学志願者像

- ・自然科学に興味をもち、将来の科学技術の発展に夢を抱く人
- ・自らの向上をめざして継続的に自己学習ができる人
- ・何事にも積極的に挑戦する意思と意欲のある人

（出典：学生課資料）

資料 1 - 2 - ② - 4

平成 24 年度入試 中学校主催等入試説明会等参加一覧

番号	月 日 曜日	返信締切日	中学校等名	担当 (教諭他)	説明会開催時間	出席者	生徒 (名)
1	5月11日 水	5月7日	・全国学習塾協会・三重県協議会		10:30~14:00	北村 登	
2	6月13日 月	6月8日	松阪市・大江中		14:00~14:15	林 浩士	40
3	6月17日 金		鈴鹿市・平田野中		13:20~14:10, 14:20	青山 俊弘、田添 丈博	30
4	6月23日 木		度会郡・南島西中		15:00~15:20	末次 正寛	32
5	6月23日 木	6月14日	多気郡・明和中		14:05~14:20	黒田 大介	232
6	6月24日 金		松阪市・飯高西		13:50~14:10	北村 登	17
		6月14日	松阪市・飯高東		14:45~15:00		49
7	6月28日 火	6月17日	松阪市・飯南中		15:30~15:50	箕浦 弘人	36
8	6月30日 木		多気郡・多気中		14:10~14:20	下野 晃	110
9	7月4日 月		多気郡・大台中		14:30~14:45	田添 丈博	44
10	7月5日 火	6月24日	多気郡・勢和中		14:45~15:00	川本 正治	35
11	9月8日 木		鈴鹿市・鼓ヶ浦中		14:20~15:10	甲斐 徳高	20
12	9月16日 金	8月2日	(合同)津市		15:40~16:05	北村 登	
13	9月16日 金		鈴鹿市・天栄中		13:25~14:15	辻 琢人	16
14	9月29日		津市・橋南中		14:25~14:40	船越 一彦	186
15	9月30日 金	8月24日	津市・豊里中		14:40~14:55	淀谷 真也	144
16	10月4日 火		津市・東観中		13:45~14:00	下野 晃	130
17	10月6日 木	6月15日	(合同)鈴鹿市・亀山市		10:00~10:25	北村 登、山口 清志	
18	10月6日 木	9月27日	津市・久居西中		14:35~14:50	川本 正治	103
19	10月7日 金		(合同)伊賀市		11:00~11:30	北村 登	
20	10月7日 金	9月30日	津市・久居東中		15:00~15:15	石谷 春樹	150
21	10月9日 日	9月10日	伊勢市・安藤塾		13:00~15:15	北村 登	200
22	10月12日 水		津市・三重大附属		13:25~13:37	末次 正寛	158
23	10月13日 木	9月16日	松阪市・嬉野中		14:40~14:55	箕浦 弘人	130
24	10月15日 土		桑名市・PTA連絡会		13:00~15:30	黒田 大介、松尾江津子	
25	10月17日 月		鈴鹿市・平田野中		13:20~14:10, 14:20	大貫 洋介、西岡 将美	16
26	10月18日 火		(合同)四日市・三重郡		15:20~15:40	北村 登	
27	10月18日 火	9月15日	津市・西郊中		14:25~14:40	柴垣 寛治	160
28	10月21日 金		津市・南郊中		14:00~14:15	安富 真一	156
29	10月27日 木		津市・白山中		15:35~15:50	箕浦 弘人	120
30	10月28日 金		津市・美里中		15:00頃	林 浩士	33
31	11月3日 水		鈴鹿市・三重私塾の会		10:30~11:15 (15分)	北村 登	
32	11月7日 月		津市・朝陽中		15:50~16:10	淀谷 真也	11
33	11月8日 火		鈴鹿市・神戸中		13:20~13:50, 14:20	船越 一彦	36
34	11月8日 火		松阪市・三雲中		15:45~16:00	田添 丈博	153
35	11月18日 金		伊勢市・五十鈴中		15:30~15:40	石谷 春樹	120

(出典：学生課資料)

平成 24 年度編入学生募集要項・編入学案内（抜粋）

1. 鈴鹿高専について

（1）鈴鹿高専の歴史

昭和 37 年(1962 年) 4 月に、我が国の工業を支える優れたエンジニアを育成するため、中学校卒業後の 5 年間で大学の学部と同水準の専門教育をめざす国立の高等教育機関として設立されたのが高等専門学校（略称「高専」）です。

鈴鹿高専は全国で 12 ある一期校の一つとして設立され、機械工学科、電気工学科（現電気電子工学科）、工業化学科（現生物応用化学科）の 3 学科体制で出発しました。その後金属工学科（現材料工学科）と電子情報工学科が増設され、これまでに 7,400 人以上の卒業生が巣立ちました。そして、技術者や研究者あるいは企業経営者として社会で活躍し、教育界や産業界の方々から高い評価を受けています。

また、平成 5 年には、科学技術の進展と本格的な国際化時代の到来に対応するため、学科 5 年間の教育課程を卒業後さらに 2 年間の高度な専門教育を実施する「専攻科」を設置し、国際社会で活躍できる人材の育成に努めています。

平成 16 年 4 月には技術者教育の新地平をめざして、独立行政法人「国立高等専門学校機構」が設置する国立高専の 1 つとして組織改変がなされるとともに、平成 18 年 3 月には大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、高等専門学校評価基準を満たしていると認定されました。

（2）教育理念

21 世紀を迎えた今、科学技術の高度化と国際化の到来により、技術者教育を担う高等教育機関には新たな展開が求められています。そのため、鈴鹿高専では建学の精神を範とした、次のような教育理念を定め、「世界に羽ばたく創造的なエンジニア」の育成を目指しています。

- ① 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養します。
- ② 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成します。
- ③ 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てます。
- ④ 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てます。

（出典：学生課資料）

平成 25 年度専攻科学生募集要項・専攻科入学案内（抜粋）

I 鈴鹿高専専攻科について

（１）専攻科の設置

高等専門学校制度は、工業技術の発展を支える実践的技術者の養成を目指す高等教育機関として昭和 37 年に創設されました。平成 3 年 7 月「学校教育法の一部を改正する法律」に基づき、主として高等専門学校を卒業した方を対象に、より高度な教育・研究指導を行い、研究開発能力、創造力をもった実践的技術者を育成するとともに、社会人技術者を対象にリフレッシュ教育を行うことをも目的として専攻科制度が創設されました。本校専攻科は電子機械工学専攻および応用物質工学専攻で編成され、平成 5 年 4 月に設置されました。

（２）専攻科の教育方針

21 世紀を迎えた今、科学技術の高度化と国際化の進展により、技術者教育を担う高等専門学校には、新たな展開が求められています。技術の高度化・融合化を踏まえ、高度な専門技術・研究開発能力と共に多分野の幅広い基礎技術をあわせもち、さらに、優れた倫理観、国際的センスを身につけた技術者の輩出が強く望まれています。そこで、本校専攻科では、次のような教育方針に基づき、科学技術の分野で国際的に活躍できる実践的技術者の育成をめざしています。

- ① 幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者の育成
- ② 新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探求能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者の育成
- ③ 社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者の育成
- ④ 日本語および英語によるコミュニケーション能力をもった技術者の育成

II アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

（１）求める志願者像

- ・ 科学技術に興味をもち、その発展に夢を抱く人
- ・ 自らの向上を目指して継続的に自己学習ができる人
- ・ 論理的に物事を考えることができる人
- ・ 豊かな想像力と何事にも積極的に挑戦する行動力をもった人
- ・ 広い視野を持ち、国際社会で活躍できる人

（出典：学生課資料）

(分析結果とその根拠理由)

本校はその目的を、ウェブサイトへの掲載、各種印刷物の配布等により知り得る状況に置いているほか、入試説明会及び中学校訪問活動等の機会を通じて説明している。

以上のことから、本校の目的を社会に広く公表している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校の「教育理念・教育目標」の学内での周知及び社会への公表についての取り組みが、「広報・交流委員会」及び「入学試験委員会」を中心に統一的、一体的に推進している点が優れていると考えられる。

(改善を要する点) 該当なし。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校の目的として、「本校の使命」、「教育理念」、「養成すべき人材像」、「準学士課程・専攻科課程、学科・専攻ごとの独自の目的」、「学習・教育目標」、「学生への支援に関する目標」を定め、さらに本校の中期目標として、「研究に関する目標」、「社会との連携や国際交流に関する目標」等を定めている。

本校は、「生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材」「高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材」「課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材」「コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材」の養成を目指しており、学校教育法第115条に規定された高等専門学校一般に求められる目的（深く専門の学芸を教授すること、職業に必要な能力を育成すること）に合致するものである。

この「目的」は、教員手帳等各種資料や説明会を通して教職員に周知している。また、学生便覧や各種オリエンテーション、各クラスルームのパネル掲示により学生にも周知している。さらに、ウェブサイト、広報誌等の資料、入試説明会及び中学校訪問活動等を通して社会に広く公表している。

